〔萬葉集略解一〕つら〳〵椿は、多く生つらなりたるをいふ、卷廿、○萬葉やつをの椿つら〳〵にともよめり、つら〳〵はつらねの、ねもごろなるをいふ、○中略紀に此木の油をとりて、から國へ贈られし事も見ゆれば、多く植おかれしなるべし、

〔和漢三才圖會八十四灌木〕海石榴　椿倭字中略○

按、海石榴卽山茶花之一類也、樹葉花實似山茶花而大、其實狀圓似無花果、而老枯則殼四裂、中子如海松子、剝皮取仁、搾取油謂木實油、塗刀劒則不生鏽、以拭漆器則出艶、塗髮亦艶美、然髮不靱、和麻油爲髮油佳、但千瓣者不結實、其葩厚大艶美、亞于牡丹芍藥、惟恨其萎甚醜、其落亦脆耳、單瓣赤者名山椿、此乃本源也、白紅粉紅絞紅、或白相半、八重千瓣之數種不枚擧、自秋生蕾春開花、冬開者名早開、人以賞之、凡伐椿直木煖火則皮能剝肌滑也、僧家以爲杜杖、

〔秉燭譚四〕海石榴ノコト

椿ヲツバキト訓ズルハ、本ヨリアヤマレリ、莊子ニ大椿ノコトアレドモ、後世ソノ花ヲ稱スルコトヲキカズ、近年平井德建氏ナド本草ヲ撿シテ云、山茶花ト云モノ卽チ日本ノツバキナリト、ソノ後物產ノ說詳ニシテ、山茶花タルコト愈明ナリ、又日本ニテイフサヽン花ハ、唐ニテハ茶梅ト云、海紅トモ云、唐ノ時分ニハツバキヲ海石榴ト云、皮日休ナド詩アリ、天武帝ノ十三年ニ、吉野人宇閉直弓ト云人、白海石榴ヲ貢スト云コト、日本紀ニアラハレリ、シロツハキト點アリ、又古海石榴市ト云所アリ、ツバキ市ト訓ズ、シカレバ日本ニテ古ハ唐ノ時ノ名ヲウケテツバキヲ海石榴トイヘルニヤ、宋以來ノ書、並ニ當代ノ人ハ曾テコノ沙汰ナシ、

〔古今要覽稿草木〕つばき　海石榴

つばきは、漢名を海石榴といひ、或は石字を省きて海榴ともいへり、この二名は蓋し唐人の命せしところにして、明人に至りては其種を誤りて、專ら山茶と稱へたり、凡つばきは本邦固有のも